

# 岩手・農産物供給センター

## 水稲の初冬直播き栽培学習会開く

岩手県農民連農産物供給センターは8月28日に盛岡市内で総代会を行い、あわせて「水稲の初冬直播(ま)き栽培学習会」を開催しました。学習会には30人が参加。講師に岩手大学農学部植物生命科学科の下野裕之教授を迎え、基本的な栽培体系を学びました。

水稲の直播き栽培は育苗と田植への労力・経費を削減する技術として、この間、関心が高まっております。少しずつ面積も広がっています。しかし春に播(は)種作業が集中することから、農家負担の軽減という面では限界がありました。

これに対して初冬直播

## 作業負担の分散化を図る



下野教授の話に熱心に耳を傾けました

き栽培は、播種作業を初冬に前倒しすることで作業負担の分散を図るものです。下野教授は、「移植(田植え)をやるのであれば、もちろんの方が良い。しかし、春作業を軽減するというのは大きなメリット。ひとつの選択肢として、初冬直播きが営農にプラスになることを期待している」と語ります。

12月に種をまき地温安定で越冬

初冬直播き栽培では、耕起した田んぼが乾いた状態で12月ごろに種子をまき、春に発芽・苗立ちさせます。雪が積もる地域ほど地温が安定するため、まいた種子が越冬しやすくなります。

さらに下野教授らは、種子に鉄粉とキヒゲンR



### 今日も笑顔で

長野県小諸市 布施 和子

参加者からは、「自分が、比較的、初期投資が少なく導入できる技術。今後どんな技術の改善が考えられるか」などの質問が寄せられました。これをうけ、下野教授は「ロータリーシーダーなどの機器を買って100万円の経費がかかる。が、比較的、初期投資が少なく導入できる技術。棒一本でスツつけてまくところからでもぜひ試してみたい。今後の展開として、コンバインで刈り取ると同時に播種をする技術も研究を進めています」と答えました。

稲穂も頭を垂れ、収穫の秋も間近となってきたこの頃ですが、各地での豪雨被害の甚大さに身のすくむ思いです。当地でも8月初めの大雨で山あいの集落では土砂崩れなどの被害が多発し、貴重な棚田に水を供給する堰も崩落しました▼地元のみなさんの努力の積み重ねで維持発展してきたことが一瞬にして壊れました。山あいの地での同様な出来事。頑張って耕してきた田畑がそのまま耕作放棄地になってしまおうのではと気になります▼地球規模で進行している気候変化の中で食料自給は喫緊の課題と思えます。農地を大事にし、収穫物を地元で回せる仕組み。学校給食での地場産小麦使用の取り組みががみあえばと思います▼当地の学校給食にも、国産小麦を使用するよう教育委員会に要請してきましたが、国の基準に基づいて安全が確認された輸入小麦を使用しているとの回答です。国の基準そのものの問題と地場産小麦を用い、子どもたちに食べてもらえたいと思えます。(蛙)



兵庫農民連  
会長 安達 紀之

私は昨年7月から芦田  
浅口前会長の後を受けて  
会長に就任しています。

### 開拓地で 水稲作付け

私の住む地域は兵庫県  
小野市と三木市にまたが  
る、市街地から100以  
ほど高い台地上にありま  
す。私の地域の南側半分  
は昭和21(1946)年  
12月から順次、旧満州か



インシシ被害にあったのり面

らの引き揚げ者が入植し  
て山林や原野を人力で切  
り開いて農地にした草加  
野(そうかの)・万勝寺  
開拓と呼ばれた地域で  
に乘る直前

## 後継者づくりが課題

私は、昭和21年9月に  
満州からの  
引き揚げ船  
に

に収容所で生まれ、生後  
3カ月から現在の地(三  
木市)に住んでいます。  
当地で水稲が作られる  
ようになったのは、昭和  
26年に加東市に完成した  
鴨川ダム(東条湖)から

の送水が始まった昭和  
33年からのことで、まだ  
60数年の歴史しかありま  
せん。

地域の田植えはダムか  
らの送水が始まる6月1  
日からで、私の田(作付  
面積は54坪)は受益地の

種も出穂の時期を迎えて  
おり、刈り取りの時期は  
10月中頃となります。

酒米も減少

三木市は酒米の王者と  
言われる山田錦の生産量  
が日本一ですが、日本酒

の田んぼが増えてきてい  
ます。

また、主食用のうるち  
米も価格の低下が続いて  
いるので、酒米をやめて  
うるち米をつくる農家は  
ほとんどいないのが現状  
で、心が痛みます。

20坪も掘り崩し、土砂が  
水路を完全に埋め尽くす  
事件がありました。この  
まま放置できないので、  
暑いなかではありましたが、  
数人でユンボ(油圧  
ショベル)の助けも借り  
て土砂を取り除き、コン

クリートのふたを、まだ  
被害にあっていない所も  
含めて40坪程度かぶせる  
作業をしました。

私の田んぼにも4〜5  
年前からあぜを崩され、  
稲を踏み倒されるなどの  
インシシの被害を受ける  
ようになりました。先  
日、電気柵を設置しま  
したが、規模の小さい農  
家にとっては痛い出費で  
した。

今後は、先代が切り開  
いた農地を守っていくう  
えでも、後継者づくりが  
課題です。獣害対策も含  
めて、隣町の営農組合な  
どと協力して問題を解決  
できればと考えていま  
す。



稲穂も頭を  
垂れ、収穫の  
秋も間近とな  
ってきたこの  
頃ですが、各  
地での豪雨被害の甚大  
さに身のすくむ思いで  
す。当地でも8月初め  
の大雨で山あいの集落  
では土砂崩れなどの被  
害が多発し、貴重な棚  
田に水を供給する堰も  
崩落しました▼地元のみ  
なさんの努力の積み  
重ねで維持発展してき  
たことが一瞬にして壊  
れました。山あいの地  
での同様な出来事。頑  
張って耕してきた田畑  
がそのまま耕作放棄地  
になってしまおうのでは  
と気になります▼地球  
規模で進行している気  
候変化の中で食料自給  
は喫緊の課題と思いま  
す。農地を大事にし、  
収穫物を地元で回せる  
仕組み。学校給食での  
地場産小麦使用の取り  
組みががみあえばと思  
います▼当地の学校給  
食にも、国産小麦を使  
用するよう教育委員会  
に要請してきましたが、  
国の基準に基づいて安  
全が確認された輸入小  
麦を使用しているとの  
回答です。国の基準  
そのものの問題と地  
場産小麦を用い、子ど  
もたちに食べてもらえ  
たいと思えます。(蛙)